

～臨床情報・検体の研究利用に関するお知らせ～

『研究課題名 閉経後の子宮頸部細胞診標本中に見られる扁平上皮異型細胞集塊の検討 』

研究機関名 東邦大学医療センター大橋病院

研究責任者 病院病理部 職位・氏名 副技師長・湯浅瑛介

【試料・情報の利用目的】

東邦大学医療センター大橋病院病理部では、閉経後の子宮頸部細胞診の標本中に見られる扁平上皮系細胞集塊を観察し、非角化型扁平上皮癌と前癌病変である異形成細胞との形態学的差異を明らかにすることを目的とした研究に利用します。

この研究で得られる成果は、非角化型扁平上皮癌の診断精度の向上の一助となります。

【他機関への提供】

他機関への提供は行いません。

【研究に用いられる試料・情報】

試料: 当院病理部に保管されている子宮頸部細胞診標本

情報: 年齢、閉経年齢

研究に利用する情報は、患者さんのお名前、住所など、個人を特定できる情報は削除して管理します。また、今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できる情報を報告・公開することはありません。

【試料・情報の利用または提供を開始する予定日】

2024年7月より利用を開始します。

【試料・情報の提供を行う機関の名称及びその長の氏名】

該当せず。

【試料・情報の取得方法】

対象者: 2018年1月～2023年12月までに東邦大学医療センター大橋病院産婦人科において、子宮頸部細胞診と組織診を受けられた、50歳以上で閉経されている方のうち、非角化型扁平上皮癌と診断された、約25名と、異形成(軽度異形成、中等度異形成、高度異形成)と診断された方のうち、細胞診標本にて萎縮性変化を示し、組織診断と同様の異形成細胞が集塊として見られた方

方法: 当院病理部に保管されている子宮頸部細胞診標本を用いて、標本上に見られる、非角化型扁平上皮癌の癌細胞、異形成細胞の細胞集塊を観察します。個々の細胞の核の大きさ、核間距離、各集塊中の核分裂像の数、不整形核の出現率を画像解析ソフトを使って計測を行い、両群間の差異を検討します

【研究組織】

代表施設名: 東邦大学医療センター大橋病院 研究代表者: 湯浅瑛介 役職: 副技師長

【利用する者の範囲】

東邦大学医療センター大橋病院

【試料・情報の管理について責任を有する者の名称】

東邦大学医療センター大橋病院 病院病理部 湯浅瑛介

本研究に関してご質問のある方、試料や情報を研究に利用することを承諾されない方は、2024年6月30日までに下記へご連絡下さい。対象となる患者様以外にも配偶者、父母、兄弟姉妹、子、同居の親族、それに準ずる近親者および代理人からの申し出も可能です。申し出のあった方の試料・情報は、利用や他の研究機関への提供を行いません。その場合でも、患者様に不利益になることはありません。

【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大橋病院 病院病理部

職位・氏名 副技師長・湯浅瑛介

電話 03-3468-1251 内線 3430